

こころのたね

心の教育も新年度スタートです

新年度が始まり、早1週間が過ぎました。新しく入学した1年生はもちろん、進級した2年生から6年生も目標をもって新しいスタートを切りました。

馬込小学校では、学校経営計画にある「心の教育の推進」を目指して、道徳の授業においても教材から様々な道徳的価値について考える実践をしています。

そこで各学年の授業の取組を学級・学年を超えて知ることができるよう、「道徳だより」を定期的に発行しています。そして「道徳だより」を通して、学校と家庭・地域との連携を図りながら、子どもたちの道徳性を育てていきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

(文責:道徳教育推進教師 久慈 利幸)

道徳科の授業とは

授業をするに当たり、教師は毎時間、授業案を考えます。これは例えるなら、住宅を造るには設計図が必要なように、授業を進めるに当たっては学習指導案を作成します。こどもの心に響き、心を耕すのが道徳科の授業です。そのためには、こどもの実態に合わせた発問(こどもの思考が伴う質問のこと)がなされなければなりません。まず、主に以下のような手順で授業内容を構築します。

- ① 主題名の決定・・・指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのような指導構想をもっているか、指導のまとまりを示すものです。
- ② 児童の実態の把握・・・道徳科以外の授業や学校生活の様子から、子どもたちにどのようなよさや課題があるのかを捉えます。
- ③ 教材分析・・・②の児童の実態から、各道徳の授業で一番考えさせたいことを中心発問として発問構成を考えます。

上記①～③の中で教師として一番意識しなければならないのが、①の「主題名」です。授業初めの導入の段階から授業終わりまでの過程において、この「主題名」から外れないように意識するようにしています。これにより終始一貫性のあるぶれない道徳科の授業になります。

次号のお知らせ

次号は2年生の道徳授業を紹介します。今年度も「こころのたね」をよろしく願いいたします